

電話で音声認識は
使えるの？

利用無料 ※1

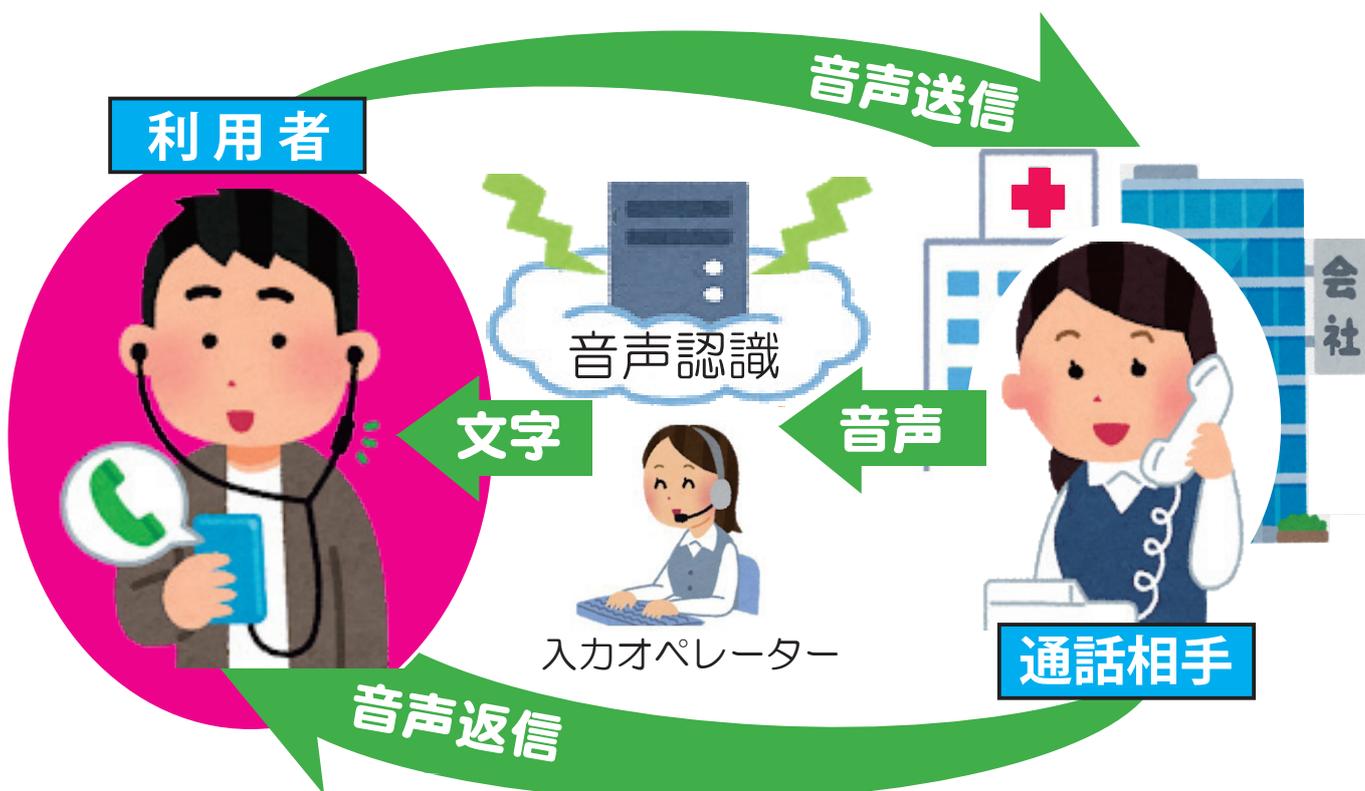
Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

電話が聞こえにくい皆さまへ

音声認識実証実験にご協力を！

500名
募集中！

一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会（以下、全難聴）では日本財団の助成を得て、電話利用での自動音声認識ソフトの有効性を検証する実証実験を行います。



文字付き電話アプリの利用イメージ

今回の実証実験では、電話音声を文字化する「文字付き電話」アプリ ※2 を無料で提供します。電話が聞こえにくい方が対象です。各自がお持ちのスマートフォン(Android)で実証実験に参加していただきます。普通の電話との違いは、相手の音声は文字で読めることです。普段の生活の中で実際に電話利用する際に、自動音声認識ソフトの実用性を、オペレーターによる入力 ※3 との比較も含め、評価していただく実証実験です。

※1 別途、通話料金およびパケット通信料がかかります。

※2 Android (バージョン 6.0 以上) が対象です。

※3 オペレーター対応時間は 10 時～18 時です。

裏面もご覧ください！

< 実験の趣旨 >

聴覚障害者の中には電話の利用が困難なため、電話ネットワークから排除され、ずっと不利益を受けてきた方が大勢います。電話利用の問題改善のために、2013年から日本財団電話リレーサービス・モデルプロジェクトが進められています。これは聴覚障害者と通話相手の間にリレーオペレーターが入り、相手の音声を聴覚障害者が望む方法（手話または文字）で中継する方法です。（<https://trs-nippon.jp/>）

ところで聴覚障害者の中でも中途失聴・難聴者の多くは発音が可能で、話し声を相手に伝えられます。もし相手の返事が聞き取れなくても、文字で見ることができれば、ほとんどの場合、電話が可能になります。このため近年の音声認識ソフトの精度向上に伴い、電話活用への期待は大きくなっていますが、電話での音声認識ソフトの活用には通常の利用と違い、通信環境や話者の話し方に左右されるなど、多くの課題があることがわかっています。こうした背景のもと、中途失聴・難聴者が音声認識を活用して電話利用するのにどんな問題があるのか、実証実験で検証することになりました。

< 期間・募集人数 >

- ・お申込み期間：2019年4月1日（月）～8月31日（土）
- ・実証実験期間：2019年6月1日（土）～9月30日（月）
- ・募集人数：最大500名（定員になり次第打ち切り）

< お申し込み先 > 全難聴サイトトップからお申し込みください。

「電話の自動音声認識実証実験」モニター募集（4/1～8/31）

<https://www.zennancho.or.jp/2043/>

登録 Form 用 QR コード→



■応募資格

聞こえにくい方で、Android（バージョン6.0以上）のスマートフォンをお持ちで、通話する度に行う簡単なアンケートにご協力いただける方。ご契約の電話会社は限定されません。

■参加費用

無料です。但し電話料金、通信料金は利用者のご負担となります。

■注意事項

音声認識精度や通話環境、相手の話し方などにより、正確に文字表示されない場合があります。また、実証実験で損害等が生じた場合、一切責任を負いかねます。自己責任でご利用ください。緊急通報「110（警察）」、「119（消防・救急）」、「118（海上保安本部）」へ発信された場合、文字表示はされません（音声通話は可能です）。

「Android」、「Google」は、Google LLC の登録商標です。

■お問い合わせ先

（一社）全日本難聴者・中途失聴者団体連合会事務所

〒162-0066 東京都新宿区市谷台町14-5 MSビル市ヶ谷台1F

E-mail: jissho@zennancho.or.jp

※ 当実証実験は、全難聴が日本財団の助成を得て、合同会社シーコミュおよび三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の協力を得て実施します。